

第 162 回 日本児童文学学会 関西例会

【日時】2026 年 10 月 25 日（日）13：15～16：50 （受付開始 12：45）

【会場】大阪府立中央図書館 2 階 多目的室(〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1)

*会場での開催のみ

【定員】70 人(申込先着順) *どなたでもご参加いただけます。

【参加費】無料

【プログラム】

13：15～13：20 開会の挨拶

研究報告：

13：20～13：50 手話が描かれた絵本におけるマイノリティ表象

—〈きこえないこと〉と他者との関係に着目して—

丸田健太郎氏(広島大学付属小学校)・黒川麻実氏(愛知県立大学)

本発表では、手話が描かれた絵本および聴覚障害にかかわる人物や出来事が描かれた絵本を対象に、その表象の特徴を検討する。くすのきしげのり作・よしむらめぐ絵『ともだち』（小学館、2022 年）をはじめとする複数の作品を取り上げ、登場人物が誰の視点からどのように描かれているか、また手話を含むコミュニケーションを介して聴者との関係がどのように構成されているかを比較する。こうした分析を通して、絵本における〈きこえないこと〉や手話の意味づけ、登場人物間の関係形成のあり方を整理し、手話や聴覚障害をめぐる絵本にみられるマイノリティ表象の特徴について考察する。

13：50～14：00 休憩

講演：

14：00～16：00 『シンビアパート』のトッケビと『妖怪ウォッチ』の妖怪キャラクターの比較を中心として—現代アニメーションにおける伝統的怪異の変容様相

講師：朴美暲氏（大谷大学）

本発表は、子ども向け怪異メディアにおいて「恐怖」がどのように変換されるのかを、日本の『妖怪ウォッチ』と韓国の『シンビアパート (신비아파트)』の比較を通して考察する。両作品では、妖怪・鬼神（鬼神）・ドッケビ（도깨비）などの超自然的存在が、日常生活や現代的なメディア環境の中に配置される。『妖怪ウォッチ』が日常の異変を妖怪化し、キャラクター化・友達化するのに対し、『シンビアパート』は死・怨恨・恐怖を怪異として物語化し、退治・解怨へと導く。また、ドッケビであるシンビは怪異の対象ではなく、人間と超自然世界を媒介する存在として位置づけられる。本発表では、怪異の生成原理、場所性、時代性、そして人間との関係性に注目し、両作品が子どもの恐怖をどのように理解可能で処理可能なものへと変換しているのかを明らかにする。

16：10～16：50 交流会 *会員のみ

参加につきましては下記アドレスよりお申込み下さい。

Peatix <https://jkansaireikai162.peatix.com>

第 162 回関西例会担当

鵜野祐介(立命館大学) 鈴木穂波(大阪大谷大学)

目黒強(神戸大学) 浅野法子(大阪成蹊大学)

お問い合わせ：浅野法子 asano-n@osaka-seikei.ac.jp